

問題1 次の文の（ ）にあてはまる語句を書きなさい。

事故は家庭、学校、地域、職場などのさまざまな場面で発生しています。交通事故をのぞく死亡事故の場合、家庭では(① 溺水)と(② 窒息)事故などが発生しやすく、道路や商業施設、工事や建設現場などでは(③ 転倒)・転落事故が発生しやすい傾向があります。また、高校では、体育の授業や運動部などのスポーツ活動時に、(④ 負傷)事故がもっとも多く発生しています。このように人々が生活する場面によって発生している事故の特徴が異なることから、それぞれの年齢や(⑤ 生活場面)に応じた事故防止対策が必要とされます。

問題2 下の文は、事故の原因となるおもな人的要因と環境要因についてまとめたものである。()にあてはまる語句を入れて、完成させなさい。

(1) 人的要因

- ・心身の状態における問題…(① 焦り), 不安、疲労、睡眠不足、体調不良など
- ・安全に関する知識や意識の問題…知識や技術の不足、(② 法律)などを尊重する意識の欠如など
- ・判断の誤りや危険な行動…不注意、(③ スピード)の出し過ぎなど

(2) 環境要因

- ・自然環境上の要因…雨、強風、霧などの(④ 気象条件), 夜間など
- ・安全施設の不備…必要な設備の欠落、設備の欠陥や故障など
- ・社会環境上の問題…法律や制度の不備、行政などからの(⑤ 情報提供)不足など

問題3 次の文の（ ）にあてはまる語句を書きなさい。

防災や防犯においては安全な(① 環境)づくりも重要です。(② 法律)や条例の整備は、安全で(③ 安心)な社会づくりの基盤となります。地震など(④ 自然災害)に強い建物は、被害を最小限にするために効果的です。また、犯罪の発生を抑止するための設備などもつくられています。さらに、迅速な(⑤ 情報伝達)と共有が、防災や防犯にとって大いに役立ちます。

問題4 次の文の（ ）にあてはまる語句や数字を書きなさい。

けがや病気で倒れている人(【① 傷病者】)を発見した場合には、まず周囲を見渡して(② 安全)を確かめます。車が行きかう場所や建物が倒壊する可能性がある場合、有毒ガスや感電のおそれがある状況などでは救助者も危険にさらされるため、(②)を確認して(③ 二次災害)を防ぎます。

(②)が確認できたら、肩をやさしく叩きながら「大丈夫ですか」などと大声で呼びかけ、(④ 反応)を確かめます。呼びかけへの(④)がなければ、大声で叫んで助けを求め、(⑤ 119)番への通報と、(⑥ AED)を持ってくるよう頼みます。(①)が目を開けたり、呼びかけに応じて声を出したりするなどの(④)があれば、意識がある状態であり、訴えを聞き、それに応じた手当をおこないます。

意識がない場合は、(①)を(⑦ 仰向け)に寝かせ、(⑧ 呼吸)の状態を観察します。(①)の胸や腹部の動きを見て、ふだん通りの(⑧)があるかどうかを(⑨ 10)秒以内に確認します。(⑧)をしていない場合や判断に迷う場合はただちに(⑩ 胸骨圧迫)をおこない、心肺蘇生法の手順にそって救急隊員に引き継ぐまで応急手当を続けます。ふだん通りの(⑧)をしていれば、ようすを見守りながら救急隊員の到着を待ちます。

問題5 次の文の（ ）にあてはまる語句を書きなさい。

出血している場合には(① 止血)をおこないます。清潔な(② 布)などを当てた上から、傷口を強く圧迫して(①)をする(③ 直接圧迫法)が有効であり、多くの場合、この方法で出血は止まります。

脱臼や(④ 骨折)が疑われる場合には、患部を(⑤ 安静)に保つために(⑥ 固定)をおこないます。痛みを軽くするとともに、患部やその周囲の組織をさらなる(⑦ 傷害)から守ります。

(⑧ 捻挫)や打撲、肉離れなどの応急手当の基本が(⑨ RICE 法)です。受傷後すみやかにおこなうことによって、(⑩ 内出血)や腫れ、及び痛みの軽減をはかります。